

地域住民の意識調査に基づく道の駅の利用促進と地域貢献への取り組み

西日本高速道路エンジニアリング四国(株) ○正会員 高畑 東志明
 西日本高速道路エンジニアリング四国(株) 正会員 橋本 和明
 西日本高速道路エンジニアリング四国(株) 正会員 松田 靖博

1. はじめに

近年日本では出生率が低下傾向にあり、人口減少と高齢化が進んでいる。地方では若者の都心部への流出も加わり特にこの傾向が大きい。国土交通省では未来に向けての国土づくりの理念・考え方を示す「国土のグランドデザイン 2050～対流促進型国土の形成～」を策定しており、来るべき少子高齢化社会に向けて「コンパクト+ネットワーク」をキーワードに、日常生活に不可欠な機能を歩いて動ける範囲に集め、周辺地域とネットワークで繋ぐことを目指している¹⁾。当社でも地域活性化への貢献と企業価値の向上を目的として、平成23年度から高知県大豊町にある「道の駅大杉」の指定管理者事業に取り組んでいる。



図－1 道の駅大杉

本文は、生活状況の把握を目的として地域住民の方々に意識調査を実施し、道の駅の指定管理事業を通じて地域貢献に繋がる取り組みを検討するものである。

2. 大豊町の現況

道の駅大杉の所在地である大豊町は図－1に示すように高知県北部に位置し、四国山地の中央部、吉野川中流域に属している。平成28年2月時点での人口は約4千人であり、公共交通は電車とバスが運行しているが本数は少ない。65歳以上の割合が56.0%、80歳以上の割合が26.4%であり、人口減少や高齢化に伴い商店が閉鎖され、また交通機関の維持が困難になるなど、日常生活に必要なサービスを提供する機能が低下しつつある。

3. 調査概要

地元住民の方々の生活状況の実態を把握するためにアンケート調査を実施する事にした。アンケート調査の概要を表－1に示す。調査範囲は道の駅大杉から半径2km以内の住宅を対象としており、各住宅を訪問してアンケート方式によるヒアリングで全数調査を行った。

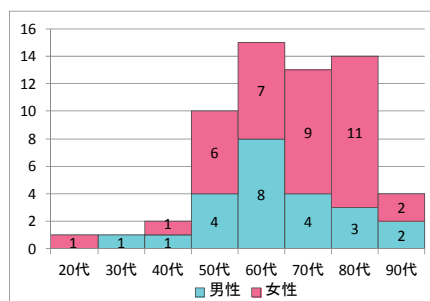
表－1 アンケート調査の概要

調査箇所	杉地区、高須地区、中村大王地区 (道の駅大杉から半径2km以内を対象)
調査期間	平成27年12月11日～平成28年1月12日のうち5日間
調査内容	・対象者の生活状況 ・道の駅の利用頻度 ・取り扱って欲しい商品 など
調査方法	聞き取り調査(アンケート方式)

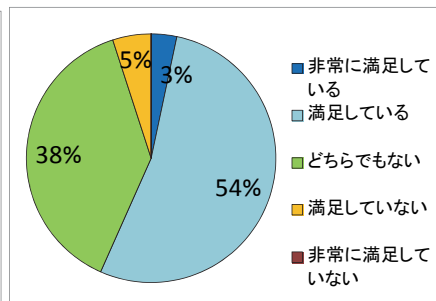
4. 調査結果

4. 1. 生活満足度

アンケート調査を実施した結果、杉地区で26件、高須地区で24件、中村大王地区で10件、計60件の回答を得た。図－2は回答者の年齢と性別をヒストグラムにしたもので年齢は60歳以上の方が7割以上を占めており、性別は若干女性の方が多かった。



図－2 回答者の年齢と性別



図－3 生活満足度

図－3は生活満足度について5段階のうちどれに当てはまるか尋ねたもので、満足度が2番目に高い「満足している」という回答が半数以上であった。アンケートの実施前は商店や交通機関が少ないことから、生活満足度

キーワード：地域計画，意識調査，統計分析，道の駅

連絡先 〒760-0072 高松市花園町三丁目1番1号

TEL 087-834-1121 FAX 087-834-0150

は低いと予想していたが、満足度が高い結果を得た。これは7割以上の方が自分で運転しており、交通手段に不自由と感じている方が少ない為であると推測する。また、道の駅の利用率は45%であった。

4. 2. 分析方法

地域貢献に寄与する方法を模索するため、調査結果のグルーピングを行う。今回は全数調査であり、調査結果がそのまま母集団であるので、異なる性質が混ざりあっている集団の中から互いに似たものを集めてグルーピングするクラスター分析を行う事とした。アンケートの質問項目から相関が大きいものを取り除き、年齢、同居人数、買い物の頻度、食事品目数、通院の頻度の5項目を説明変数として分析を実施した。

4. 3. 分析結果

クラスター分析結果を図-4に示す。この結果から今回はグループ1、グループ2の2つのグループに分ける事とした。アンケート結果からグループ毎の「道の駅に求めるもの」の傾向を把握するためクロス集計したものを表-2に示す。グループ1では日常生活に必要なものを求める傾向が強く、グループ2では高付加価値の商品やサービスを求める傾向が強かった。

またグループ1及びグループ2の各説明変数におけるZ得点をグラフにしたものを図-5に示す。この図でZ得点の差が大きい項目が各グループの特徴となる。これらの結果からグループ1は高齢で同居人数が少なく、道の駅に生鮮食品や薬などといった日常生活で必要となるものを求めている。これは同居人数が少ないため、食事品目数が少なくなることが背景にあると思われる。グループ2はグループ1よりも若くて同居人数が多く、おいしい食事や楽しいイベントなどといった娯乐的な要素を求めているグループと分類することができる。

5. 分析結果に基づく新たな取組み

各グループの特徴と、それに応じた改善案を表-3に示す。グループ1に対しては①や②のように取扱品目に日常生活で必要となるものを増やし、またそれらを販売しに行くなどといった案が考えられる。グループ2に対しては③～⑥のように高付加価値の商品やサービスを提供する案が考えられる。各グループに対応した改善を行うことによって道の駅を日常生活を送る上で利便性の高いものとし、また地域の交流の場とする事で地域貢献に寄与できるのではないかとと思われる。

6. まとめ

- (1) アンケート調査を実施することで地域住民の生活状況を把握することができた。
- (2) クラスター分析を用いて2つのグループに分類し、各グループの特徴を分析した。各グループに対応した改善を実施することで地元に対する道の駅の役割を向上させ、地域貢献に繋げることができる。
- (3) 今後高齢化が進むにつれて、グループ2の割合が減少してグループ1の割合が増加する事が予想される。今回同居人数が少なくなると食事品目数も減少する傾向にあったため、更なる地域貢献のため今後は食事や栄養バランスのテーマについても検討する必要がある。

参考文献

- 1) 国土交通省：平成26年度 国土交通白書, p2-101, 2014

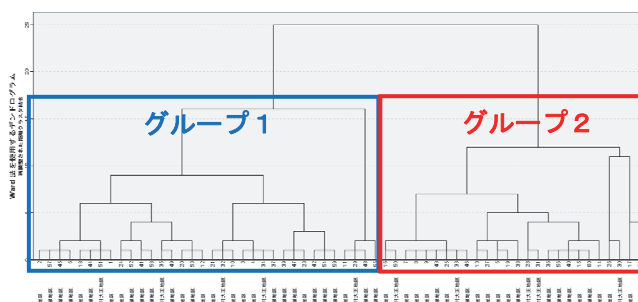


図-4 クラスター分析結果

表-2 各グループが道の駅に求める割合

道の駅に求めるもの	グループ1	グループ2	合計
日常生活に必要なもの	36%	14%	50%
高付加価値の商品	5%	27%	32%
高付加価値のサービス	0%	18%	18%
合計	41%	59%	100%

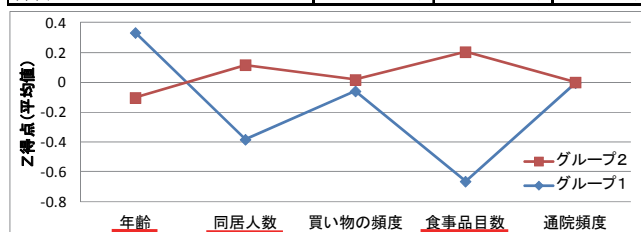


図-5 各説明変数におけるZ得点

表-3 グループに応じた新たな取組み案

グループ	グループの特徴	新たな取組み案
1	・食事品目数が少ない ・生鮮食品や日用品を求めている ・あまり活動的でない「受身」	① 取扱品目を増やす ② 訪問販売や宅配サービスの実施
2	・趣味や娯楽を求めている ・割と活動的である	③ 新しい食事メニューの開発 ④ 料理教室や手芸教室等の開催 ⑤ 季節にちなんだイベントの実施 ⑥ 交流設備の充実